

第9期(平成26年3月期)中間決算の概要

1. 連結決算の概要

(単位:億円、単位未満切捨て)

項目	平成25年 中間期 (A)	平成24年 中間期 (B)	増減		平成26年 3月期 通期見通し	平成25年 3月期 通期実績
			金額 (A-B)	率 (A-B)/(B)		
営業収益						
高速道路事業	1,870	866	1,004	115.9%	3,434	2,227
料金収入等	873	851	21	2.6%	1,729	1,711
道路資産完成高	997	15	982	-	(注)3 1,705	515
関連事業	55	64	▲ 8	▲ 13.6%	132	139
受託事業	37	38	▲ 0	▲ 1.1%	92	93
その他の事業(注)1	17	25	▲ 8	▲ 32.2%	39	45
セグメント間取引消去	▲ 1	▲ 0	▲ 0	-	-	▲ 2
	1,925	930	995	107.0%	3,566	2,364
営業費用						
高速道路事業	1,837	836	1,000	119.6%	3,460	2,205
道路資産賃借料(注)2	658	637	21	3.3%	1,315	1,277
道路資産完成原価	997	15	982	-	(注)3 1,736	528
管理費用	181	183	▲ 2	▲ 1.4%	408	399
関連事業	54	62	▲ 8	▲ 12.9%	127	135
受託事業	38	38	▲ 0	▲ 1.0%	91	94
その他の事業(注)1	15	23	▲ 7	▲ 32.3%	35	41
セグメント間取引消去	▲ 1	▲ 0	▲ 0	-	-	▲ 2
	1,889	897	992	110.5%	3,587	2,338
営業利益						
高速道路事業	33	30	3	11.8%	(注)3 ▲ 25	21
関連事業	1	1	▲ 0	▲ 32.2%	4	3
	35	32	2	9.1%	▲ 20	25
経常利益	36	35	1	5.2%	▲ 18	31
中間(当期)純利益	21	22	▲ 1	▲ 5.8%	▲ 25	17

(注) 1 関連事業の「その他の事業」には、休憩所等事業、駐車場事業、道路マネジメント事業、発生土再生活用事業等を含んでおります。

2 道路資産賃借料は、平成25年中間期から変動貸付料制を適用し、14億円減算されました。

3 平成26年3月期通期見通しにおける高速道路事業の損失は、緊急修繕の一部について、高速道路事業に係る利益剰余金の活用を前提に、高速道路機構への債務の引渡しを行わないで高速道路機構に帰属する道路資産を形成する事業を実施することによるものです。(道路資産完成原価と道路資産完成高の差が31億円発生)

4 平成26年3月期の通期見通しには、不確定な要因を含んでおり、将来の業績等を保証するものではありません。実際の業績等については、様々な要因により変化するものであることをご承知おき下さい。

2. 通行台数実績

(単位:千台)

項目	平成25年 中間期	平成24年 中間期	増減率
通行台数	135,679	131,655	3.1%
一日当たり通行台数(全体)	741	719	3.1%
一日当たり通行台数(普通車)	680	661	3.0%
一日当たり通行台数(大型車)	61	59	4.1%

3. 事業の状況

(1) 高速道路事業

【業績の概要】

- 阪神高速道路の一日当たり平均通行台数は、約74万台(前年同期比3.1%増)とやや増加傾向となり、この通行台数増加の影響等により料金収入は870億円(前年同期比2.5%増)
- 道路資産賃借料は、当中間期より変動貸付料制を適用し、658億円(前年同期比3.3%増)
- 道路資産完成高及び道路資産完成原価は、淀川左岸線(島屋～海老江JCT)の開通等により、997億円(前年同期は15億円)
- この結果、高速道路事業において営業収益は1,870億円(前年同期比115.9%増)、営業費用は1,837億円(前年同期比119.6%増)、営業利益は33億円(前年同期比11.8%増)となりました。

【主なトピックス】

- 平成25年5月25日に、阪神高速2号淀川左岸線(島屋～海老江JCT)が開通しました。また、同年12月15日に、阪神高速4号湾岸線三宝出入口の通行止めを解除するとともに、関西空港方面からの出口が新たに開通しました。
- 「安全・安心・快適」の更なる追求のため、平成24年度補正予算(緊急経済対策)の一環として位置づけられた緊急修繕事業に鋭意取り組んだほか、橋梁の付属物等全ての構造物を対象に第三者損害発生危険箇所を洗い出した上で対象構造物の安全総点検を進めました。

(2) 受託事業

【業績の概要】

- 大阪府道高速大和川線に係る工事受託等により、営業収益は37億円(前年同期比1.1%減)、営業費用は38億円(前年同期比1.0%減)、営業損失は6百万円(前年同期は営業損失3百万円)となりました。

(3)その他の事業

【業績の概要】

- 休憩所等事業、駐車場事業、第二阪奈有料道路の管理等の道路マネジメント事業、発生土再生活用事業等を展開したことにより、営業収益は17億円(前年同期比32.2%減)、営業費用は15億円(前年同期比32.3%減)、営業利益は1億円(前年同期比30.5%減)となりました。

【主なトピックス】

- 平成25年4月、大阪府道路公社より第二阪奈有料道路の維持管理業務を新たに受託。また、奈良県側については、昨年度に引き続き共同企業体の一員として3箇年にわたる維持管理業務を奈良県道路公社より受託しました。

(参考)平成25年中間期の個別業績について

(単位:億円、単位未満切捨て)

項目	平成25年 中間期 (A)	平成24年 中間期 (B)	増減		平成26年 3月期 通期見通し	平成25年 3月期 通期実績	
			金額 (A-B)	率 (A-B)/(B)			
営業収益	高速道路事業	1,868	864	1,003	116.1%	3,433	2,219
	料金収入等	870	849	21	2.5%	1,727	1,704
	道路資産完成高	997	15	982	-	(注)2 1,705	515
	関連事業	45	45	0	0.2%	107	107
	受託事業	37	38	▲ 0	▲ 1.1%	92	93
	その他の事業	7	6	0	8.0%	15	13
	1,913	909	1,003	110.3%	3,540	2,327	
営業費用	高速道路事業	1,832	834	998	119.6%	3,463	2,204
	道路資産賃借料	(注)1 658	637	21	3.3%	1,315	1,277
	道路資産完成原価	997	15	982	-	(注)2 1,736	528
	管理費用	176	181	▲ 5	▲ 2.8%	412	397
	関連事業	43	43	0	0.0%	104	105
	受託事業	38	38	▲ 0	▲ 1.0%	91	94
その他の事業	5	5	0	7.5%	12	11	
	1,876	878	998	113.7%	3,567	2,309	
営業利益	高速道路事業	35	30	5	17.5%	(注)2 ▲ 30	15
	関連事業	1	1	0	7.2%	3	2
	36	31	5	17.1%	▲ 27	17	
経常利益	38	33	4	14.6%	▲ 25	20	
中間(当期)純利益	22	22	0	1.9%	▲ 29	10	

(注) 1 道路資産賃借料は、平成25年中間期から変動貸付料制を適用し、14億円減算されました。

2 平成26年3月期通期見通しにおける高速道路事業の損失は、緊急修繕の一部について、高速道路事業に係る利益剰余金の活用を前提に、高速道路機構への債務の引渡しを行わないで高速道路機構に帰属する道路資産を形成する事業を実施することによるものです。(道路資産完成原価と道路資産完成高の差が31億円発生)

3 平成26年3月期の通期見通しには、不確定な要因を含んでおり、将来の業績等を保証するものではありません。実際の業績等については、様々な要因により変化するものをご承知おき下さい。